

航空業界における乗客確保のあり方

理想の航空会社とは

【目次】

はじめに	第3章 消費者確保の条件
第1章 公共交通機関としての役割	第1節 乗客確保への割引運賃設定
第1節 航空産業の歴史	第2節 低価格運賃にするための取り組み
第2節 航空関係法	第3節 社員の勤務労働実態
第3節 飛行機対 JR 時間と運賃の比較	第4節 飛行機インシデント件数の危険性
第4節 国内年間旅客数	第4章 航空会社の経営について
第2章 航空会社の課題	第1節 大手3社の会社経営
第1節 ローカル路線運行	第2節 新規参入会社の課題
第2節 航空会社の空港使用の現状	第3節 これからの航空会社のあり方
第3節 ISO 取得への取り組み	おわりに

【研究の目的・課題】

航空産業とは、電車、バス、船と様々な交通手段がある公共交通機関の1つである。そして、その中でも最も遠距離を短時間で輸送できる手段であり、近年では大手航空会社の合併、新規航空会社の参入などが行われている。しかし、企業間競争を行う中で競争激化により、格安チケット販売に向けた取り組みとして、コスト削減に努めている。そのため、多発する飛行機トラブルにおいて私たち利用者に安全性への不安を抱かせている。

そこで、公共交通機関としての航空業界のあり方について考えるとともに、利用者が望むべく航空会社のあり方について考える。

【方法】

関連する文献や資料、国土交通省、各航空会社のホームページを参考に、現状分析と課題について考察する。

【結論】

日本の航空業界は、アメリカやヨーロッパなど航空先進国を見本に、新規会社参入や運賃自由化への規制緩和を行ってきた。その結果、各航空会社による競争が問われるようになり、低価格運賃の提供サービスを始め、コスト削減に力を注いだのである。その対象となったのが、海外へ委託する機体整備や外国人パイロットの雇用、そして客室乗務員のアルバイト化であった。これにより、飛行機の安全面が薄れていったのである。

このことより、航空業界は、もう一度コスト削減部分の見直しを行うべきであると思う。そして、これから航空会社に望むべきことは飛行機を利用する搭乗者に安全と価格において、情報公開を求めたい。

【参考文献】

- 杉浦一機『航空大競争』中央書院，2002年。
- 杉浦一機『新 JALvsANA 最後の攻防』中央書院，2003年。
- 有馬寛子『規制緩和と公共料金』社団法人くらしのリサーチセンター，2004年。
- 安部誠治『公共料金が危ない規制緩和と過密労働』岩波書店，2005年。
- 井上雅之『よくわかる航空業界』日本実業出版社，2004年。
- 大橋英吾『日本のビッグビジネス 13 日本航空全日空』大月書店，1998年。
- 溝上幸伸『航空業界の全てがわかる本』ぱる出版，1999年。